

平成23年度 市民の企画提案による協働のまちづくり事業公開プレゼンテーション

旭川の夢づくり

～ 旭川駅－旭山動物園－空港間に
DMV(鉄陸両用車)を運行させる気運づくり ～

平成23年5月21日

まちづくり呼びかけ隊

まちづくり呼びかけ隊は

- 会員間で話し合ったまちづくりに対する思いやアイデアを市民に発信（呼びかけ）し、賛同の輪を広げ、少しでも住みやすいまちづくりを目指して活動する団体です。
- 月1回の定例会を開催し、市民に公開して、
 - ➔ ミニ講演会（年1回）
 - ➔ 旭川の隠れた人材の紹介と作品展示・発表会（年1回）
 - ➔ 人材や自然を巡るツアー（年1回）
 - ➔ 市民意見交流会（年1回）を行う外、会員間では、
 - ❖ 一人1発表（月1回）や見学会（年数回）
 - ❖ 観桜会（年1回）や懇親会（年数回）などを実施しています。
- 年会費は1,000円で、常時、会員を募集しています。また、まちづくりに対する意見・アイデアも募集しています。



協働事業提案のテーマ

旭川の夢づくり

～ 旭川駅－旭山動物園－空港間に
DMV(鉄陸両用車)を運行させる気運づくり ～

テーマ選定の理由(目的)

- 旭山動物園は全国的に有名です。その外にも、新駅のオープン、川の街、家具の街、彫刻の街、医療の街、スイーツの街、ラーメンの街……と謳われながらも、何かインパクトが足りません。
- 必要なのは、子どもからお年寄りまで、共通して、夢の持てるまちづくりと考えます。
- まちづくり呼びかけ隊は、本市活性化の起爆剤として、本市に、JR北海道が取り組むDMV(鉄陸両用車)を導入するよう提案するため、セミナー、パネル展示、市民意見交流会などを実施し、その気運を盛り上げることを目的にこのテーマを選定しました。
- なお、本格導入については、この目的が達成された早い段階で、なるべく運営組織に委ねたいと考えております。

DMV (dual mode vehicle) とは

- 道路とレールを自在に行き来できる乗り物。
- JR北海道が2004年1月にDMVの開発に成功し、2007年4月より、実用化に向けた「試験的営業運行」を開始しました。
- その特徴は、
 - 道路とレールの乗り換えがわずか10秒～15秒
 - 低コストでの運用が可能
 - 実用化に向けたさまざまな技術的な工夫
- 2010年8月30日 JR北海道は、運転士を含む定員が29人の新型試作車を公開し、3台の連結運転を披露しました。
- 車両価格は、鉄道車両の4分の1程度の3500万円前後。



何故 DMV (dual mode vehicle) か

■ 話題性

廃止寸前のローカル線における代替車両としてのイメージが強いDMVですが、本市においては、生活交通手段+乗車目的・観光資源(乗車を目的とする乗客や観光を目的とする観光客)として、導入を図ります。

■ 路面電車へのこだわり

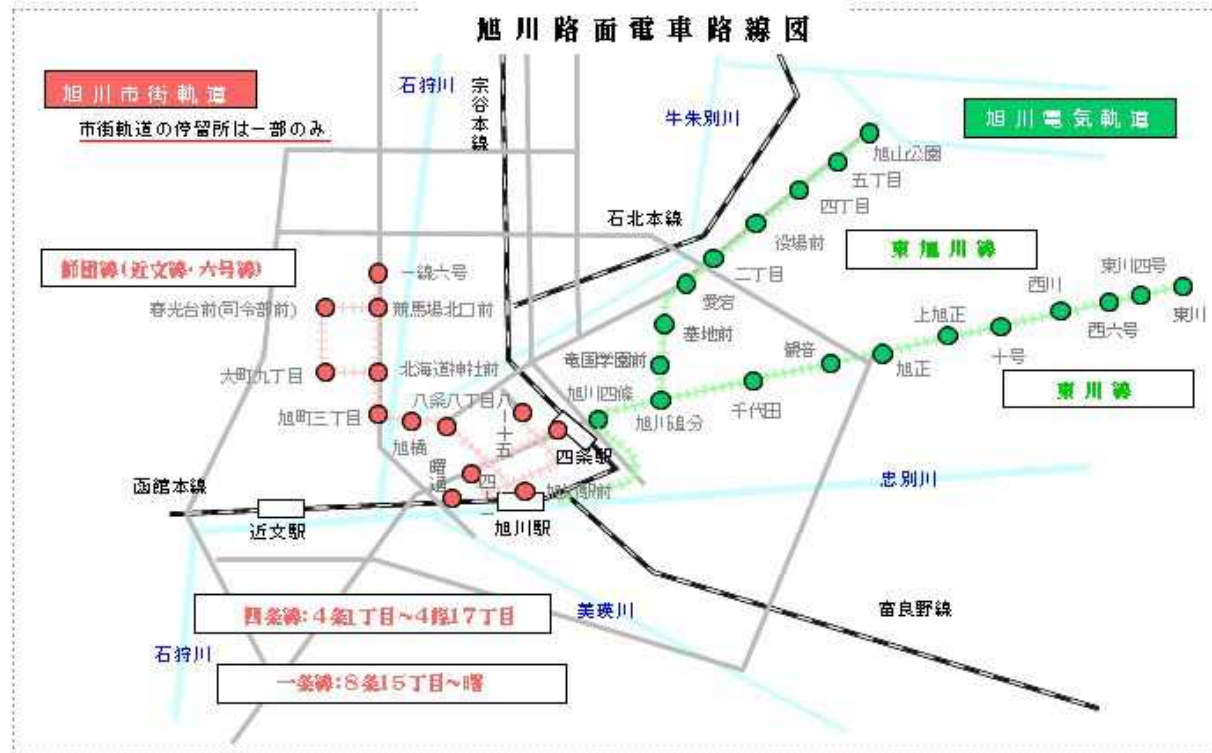
本市の路面電車は、最北の路面電車として親しまれ、2社5路線が運行していましたが、昭和47年12月31日に最後の東川線が廃線となりました。市街軌道のピーク時(昭和19年)の、述べ乗客数は1,083万人に達したと言われています。

注) 昭和20年の旭川市の人口は8万9,513人

■ 観光客入り込み数、動物園入園者の低迷

動物園入園者数は、平成17年度に年間200万人を突破しました。ピーク時(平成19年度)は300万人も超え、平成21年度まで、5年連続で上野動物園(東京)に次いで全国2位でしたが、平成22年度は206万人となり、東山動物園(名古屋市)に次ぐ3位に転落してしまいました。

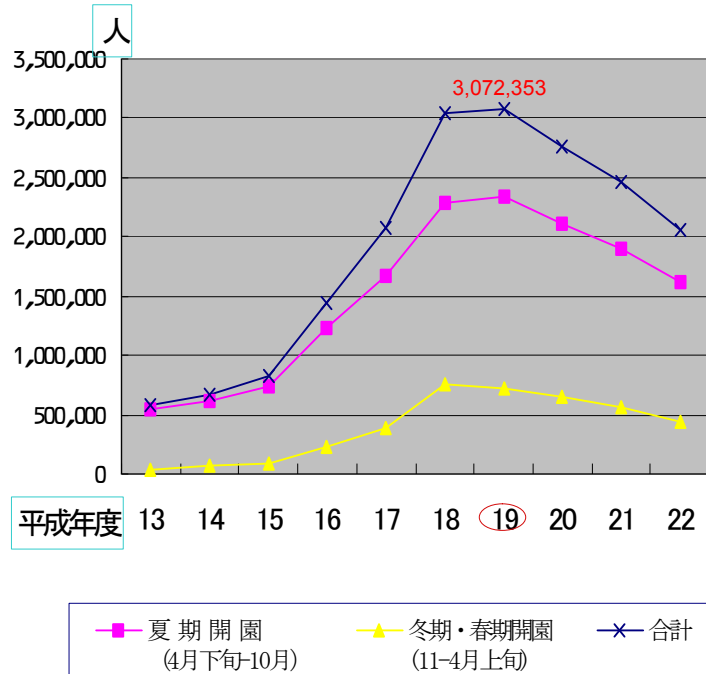
(参考1) 旭川路面電車路線図



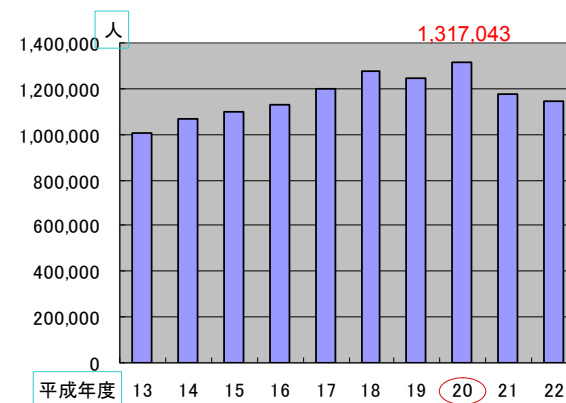
(参考2) 旭山動物園入園者数の推移

付 旭川空港利用状況、観光入り込み客数の推移

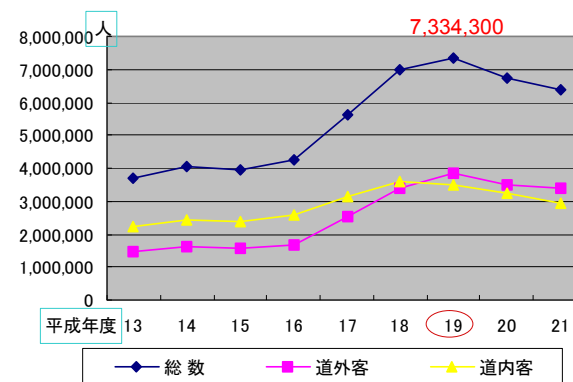
旭山動物園入園者数の推移(平成13年度~22年度)



旭川空港の利用状況(総乗降客数)



観光入り込み客数の推移



生活交通手段としての導入

- 単に、常客を目的地（動物園、空港）に輸送するだけでは、次の理由で、路線バスが有利です。
 - ◆ DMVと比べ、車両コストが安い
 - ◆ DMVと比べ、大量輸送が可能
 - ◆ 新たな設備投資や公費負担のため道路維持費が不要
- そのことが、DMVを導入した場合も、既存の路線バスと競合することがなく、共存可能と言えます。
- DMVは、現行の路線バスとほぼ同程度のサービス内容（所要時間、乗車料金）で運行が可能と考えます。
 - ◆ 現行路線バス料金（片道）
旭川駅－動物園（400円）、動物園－空港（500円）、旭川駅－空港（570円）
 - ◆ 現行JR料金（片道）
旭川駅－北日ノ出駅（260円、11.0Km、所要約20分）
旭川駅－西聖和駅（260円、12.3Km、所要約20分）
 - ◆ 旭川観光循環バス・ファンファン（1日乗車券800円、2日乗車券1,000円）

乗車目的・観光資源としての導入

- DMVに乗ることが目的の乗客、郊外を走るDMVを観光資源として見物に訪れる観光客を呼び込みます。
- 乗車を目的とする乗客は、次のような理由で集まります。
 - ★ 鉄路と陸路を走るという好奇心
 - ★ 鉄路の利用により、信号待ちや交通混雑による渋滞からの開放感
 - ★ 路面を連結車両で走る遊び心
- 観光資源として見物に訪れる観光客は、次のような理由で集まります。
 - ★ カメラ愛好家:新しい観光スポット
鉄橋の上を走るDMV、夕日を浴びて走るDMV、道路とレールの乗り換えポイント
 - ★ 鉄道ファン:都市郊外を走るDMV
 - ★ 地域公共交通の在り方を検討する地方公共機関・団体

DMV導入後の効果

- 新たな雇用機会の創出
経営体、安全・保安要員などの新たな雇用機会が創出されます。
- 話題性を生かした地域の活性化
DMVのもつ話題性が、観光客や鉄道ファン、マスコミ等の関心を呼び、周辺への波及効果が地域の活性化をもたらします。
- 交通混雑の緩和
既存のバス輸送とは共存可能であり、シーズンにおける道路渋滞の緩和が図られます。
- 景観、観光周遊ルートの整備
新駅(中心市街地)～空港～動物園～新駅(中心市街地)をメインに、周辺の観光スポットも取り込むことにより、新たな観光ルートとしての展開が可能となります。

DMV導入の必要条件と提案事業の実施事項

- 本市にDMVを導入するに当たっては、JR北海道の理解と協力が不可欠です。
- また、JR北海道の理解と協力を得るためには、行政、関係機関のバックアップと導入しようという市民の気運が高まっていることが必要です。
- 特に、市民の気運が高まれば、行政、関係機関のバックアップも得やすく、ひいては、JR北海道の理解と協力も得やすくなると思います。
- このような認識の基、市民の気運の高揚を図ることが第1義と考え、提案事業では次の事項を実施します。
 - ① セミナー（講演会）
DMVを含む地域公共交通の現状と今後の方向性を理解するために実施します。
 - ② 基礎調査
導入することが本市にとって有効であることの証を得ることを目的に実施します。
 - ③ 市民意見交流会、パネル展示
基礎調査をとりまとめ、DMV導入について市民の関心を惹き付けるために実施します。

セミナー(講演会)の実施

- DMVを含む地域公共交通の現状と今後の方向性を理解するために実施します。
- 市民を始め、行政や関係機関の多くの参加者を呼び込むため、国土交通省(総合政策局交通計画課)、JR北海道のDMV開発担当者、市の担当部署から講師を招聘し、次のようなテーマで講演を依頼します。
 - ★ 本市における公共交通網整備の考え方(仮題:市の担当部署)
公共交通の現状と課題、今後の公共交通網整備の方向性についてお話を伺います。
 - ★ 地域公共交通の現状と展望(仮題:国土交通省)
「地域公共交通活性化・再生総合事業」の考え方やその背景、取り組み状況、優良事例などの紹介をいただき、地域公共交通に関する新技術・システムの動向を学びます。
 - ★ DMVの実用化・普及の取組みと今後の課題(仮題:DMV開発担当者)
DMVの特徴と実証運行の成果、今後の可能性についてお話を伺います。
- 講師の紹介・斡旋を市にお願いします。また、講師の人選にもよりますが、講演会の様子を大きく報道(ポテトなど)することも考慮します。
- 参加定員は、100名ほどを考えています。

基礎調査の実施

- DMVを導入することが本市にとって有効であることの証を得ることを目的に実施します。
- 基礎調査は、次の3種類とします。
 - 予備調査
DMVの特徴、本市における導入の有効性、他の交通手段との優位性、既存事業者との優位性・共存性、導入の手続き(関係機関等との調整を含む)などをインターネットや取材(試乗体験を含みます)を通じて整理します。
 - 導入調査
走行(運行)ルート、必要な許認可事項、運営組織の在り方、施設・設備経費、運用経費、事業収支見通しなどをインターネットや取材を通じて整理します。
 - アンケート調査
セミナー(講演会)、市民意見交流会の2回、それぞれの参加者を対象にして、導入の是非について調査を実施します。

市民意見交流会、パネル展示の実施

- 基礎調査をとりまとめ、その結果を基に、DMV導入についての提案書を作成し、市民の関心を惹き付けるために実施します。
- 市民意見交流会は半日程度、パネル展示は、1週間～2週間程度を考えています。
 - ➔ 市民意見交流会
提案書やパネル展示の内容をもとに、DMV導入について、公開でフリーに話し合います。
 - ➔ パネル展示
DMV開発の経緯や特徴、実証運行の成果、他の輸送手段との比較、DMV導入の狙いや効果、走行ルートなどのパネルを作成し、展示します。
- 市民意見交流会の参加定員は、25名ほどを考えています。

事業実施のスケジュール

事業の実施は、おおよそ次のようなスケジュールを考えています。

➡ (平成23年)

- 6月 JR北海道など関係機関への協力要請
- 7月～ 9月 DMVの試乗体験又はJR苗穂工場の見学
- 7月～12月 地域公共交通に関する基礎調査(文献・インターネットなど)
- 9月～10月 地域公共交通近代化セミナー(講演会)^{注)}

➡ (平成24年)

- 1月～ 3月 報告書取りまとめ
- 2月 市民意見交流会・パネル展示の実施
- 3月 報告書提出

注) 地域公共交通の近代化セミナー(講演会)は、JR旭川駅のグランドオープンイベントとして開催できないか検討します。

協働で取り組むことの必要性

- ◆ 提案事業は、DMV導入の気運を盛り上げることが目的です。まちづくり呼びかけ隊は、本格導入の担い手にはなれませんが、できる限り早い時期にDMVを運行させることが最終目的です。
- ◆ DMVの導入は、今後の本市の公共交通に大きく関わることです。導入の可否を決するには、多くのフィージビリティ・スタディが必要と理解します。そうしたノウハウは行政に頼らざるを得ません。
- ◆ また、事業の実施に当たっては、JR北海道や関係機関との調整、講演会講師の紹介・斡旋、セミナー（講演会）・意見交流会などの広報、関連情報の提供など、行政が関わることで、円滑かつ効果的に実行可能になると考えます。

想定する事業の役割分担

- まちづくり呼びかけ隊は、次の役割を担います。
 - ➔ 地域公共交通の基礎調査(文献・インターネット)
 - ➔ DMVの試乗体験
 - ➔ 地域公共交通近代化セミナーの実施
 - ➔ 市民意見交流会・パネル展示の実施
 - ➔ パンフレット、展示パネルなどの作成
- 市には、次の役割を期待します。
 - ➔ JR北海道など関係機関との調整
 - ➔ セミナー講師の紹介・斡旋
 - ➔ セミナー、市民意見交流会の広報
 - ➔ 情報提供、人的支援、負担金

事業終了後の成果の活用

- DMVは、JR旭川駅～JR石北線(北日ノ出駅)～旭山動物園間～旭川空港～JR富良野線(西聖和駅)～JR旭川駅を運行させます。
- 旭川駅で折返しができない場合は、次の2点を検討します。
 - ➡ 乗客は旭川駅にて降ろし、近文駅まで走行し、近文駅で折り返す。
 - ➡ 市街地の中心部では路上を走らせる。
- 将来は、陸路も電気又はバイオエネルギーの利用を考慮し、車両もユニバーサルデザインを取り入れます。
- 臨時便(幼稚園児や養介護者などの動物園への送迎、ラーメン村や就実の丘など周辺の観光スポット)の運行も検討します。

旭川の夢づくり

旭川駅ー旭山動物園ー旭川空港にDMVを運行させましょう



ご清聴有り難うございました

まちづくり呼びかけ隊